



**今月の話題：**最近のウクライナの戦禍、トルコ・シリア地震災害の報道に心が痛む。筆者は小学2年生の時、学童疎開の避難生活を過ごし、焼夷弾の直撃を経験、グラマンの機銃掃射も浴びた。神戸淡路大震災の時には直後に初めての建築物危険度診断で現地に赴き、惨状を目の当たりにした。世界の事も他人事ではない心因となっている。大災害に遭っても基本的な日常生活が続けられる準備の必要を改めて強く感じている。(伊藤誠三)

### □ 本部便り：(金森捷三郎 記)

・令和5年度サーツ通常総会を2月21日に開催し、途中退任された宮崎監事の補欠に加納英範氏が選出された。総会後の松村代表理事の基調講演は3月に定年退職される東大教授生活の総括とも言うべき意義深いものでした。その後、懇親会が実施され、参加者全員に発言の機会があり、久しぶりに良い交流の機会となりました。

・サーツ事務所の家賃の値上げをめぐり、貸主のサンフロンティア不動産から東京地方裁判所に調停申立がなされ、3月3日(金)に調停が行われます。サーツは大森法律事務所に依頼してこれに臨みます。

○次回拡大理事会は5月18日(木)16:00～

### □ 建築部会：(岡本直 記)

1) 2/18に第9回オンライン方式サーツ寺子屋を開催し、76名の参加申し込みがあった。テーマは「建築物の耐風設計：誤解と問題点」。講師の田村幸雄先生は中国を始め海外でも研究や教育にあたる風工学の第一人者である。当日は、建築物に風が及ぼす影響を正しく認識するために11項目の話題を取り上げ、分かり易い解説をして頂き参加者から好評を得た。当日非参加の方もサーツのホームページから閲覧可能なので、視聴をお勧めしたい。様々な被害例の貴重な動画を視覚できるので、構造設計者以外にも大いに参考になる内容となっている。

2) 2/27、和田章先生が代表理事の防災学術連携体による「トルコ・マラッシュ震災に関する緊急報告会」が開催された。約1200名の参加があり、日本での関心の高さが認識された。建築部会でもyou tubeによりProf. Fatih Suteu(イスタンブール工科大学助教授)の現地からの報告を視聴した。地震発生(2/6)後の約20日間で多くの犠牲者を出す被害を被った建物の詳細な調査が行われていて、大破や崩壊に至った建物と免れた建物の要因比較分析も進められている。関東大震災に匹敵する大きさの地震であることから、この悲惨な地震災害から多くを学び、我々の地震の備えの参考としなければならない。

○次回建築部会3月20日(月)17:30～19:00 (zoom)

### □ 戸建住宅部会：(小須田廣利記)

・部会の複数の調査研究に「CLT素材の活用提案」をテーマにしたものが有ります。この提案はCLT協会が行っている研究提案と情報共有することで進めているテーマです。街には河川の氾濫などで浸水する建物が数多くあります。例えば地下鉄の階段、エレベーター、商業ビルの入り口などです。この浸水してしまう建物の入り口部分に、CLT材で作成した高さ1m程度の囲いを緊急時に取り付ける提案です。しかし問題もあります。通常時にどこに格納しておくか、また一定程度の重さもあり組み立ては簡易にできるか。また設置予定の場所に自動販売機や電柱、そして段差もあるでしょう。設置場所の状況により複数の部品の形状を用意しなければなりません。こんな複数の問題もアイデアでカバーできるのではない

かと考えます。すでに格納に関しては、通常時には設置場所付近にベンチとテーブルに使用するなどのアイデアもあり、社会で必要とされている提案は積極的に起こることが求められていると思います。

○次回部会予定：3月10日(木)16時～17時30分、

### □ 集合住宅部会：(秋山哲一記)

・昨年12月に集合住宅部会として引き受けた多摩市主催「マンション管理セミナー」において、小畑・呉の2名が講師を務めた。今回はその後の展開を紹介したい。

1月に入って12月の表記セミナーに参加していた多摩市内の管理組合役員から連絡があった。改めて講演者2名が出向いたところ、「講演を聞いてELV設置に可能性があることの認識ができた。今後、管理組合内の合意形成を経て、ELV設置の方向で検討を進めたい」とのこと。規模の小さな管理組合ではあるが、EVL増設のモデルケースとしてプロジェクト仕立てで協力事業者紹介や助成金獲得支援を前提に取り組む方向で進めたいと準備中である。このような具体的なアクションにつながる可能性のある講演会活動にも積極的に出向いてみたい。

○次回部会予定：マンション管理組合支援事業部会と合同 3月31日17:00～サーツ事務局(対面開催)

### □ マンション管理組合支援事業部：(丸山和郎 記)

・2月21日に開催された令和5年度総会に於いて、マンション事業部は、「内部体制の強化」を最優先課題として報告した。コロナ禍にあっても、管理組合支援活動では対面によるコンサルティングが基本となるため、リモート対応には限度があり、稼働中のプロジェクトのうち毎月1回対面を必要とする案件を3～4件に抑え、リモート対応が可能な長期修繕計画作成業務も3～4件にしています。「内部体制の強化」と言っても限られた部会員で遣り繰りするわけではなく、案件内容によって集合住宅部会や建築部会の協体制を強化しようというもので、協力できる他の部門への相談内容別仕訳けを標準化することになります。同時に、平成15年以来、担当技術者の技術料が変わっていないため、業務委託契約内容も含め、今年度に見直しを図ることとし、企画WGに発議したいと考えています。国交省の令和5年度および6年度の「長期優良住宅化リフォーム推進事業」を大規模修繕工事に組み込んだプロジェクトも進んでいます。今年度はスケジュール通り消化すべき大事な年になると思われますが、部員各位の努力が報われるようサーツの共同体制強化を図る所存です。

○次回部会予定：3月31日 集合住宅部会と共催

### □ 建築技術誌3月号(2月17日発売)サーツ欄掲載記事

・飯山道久氏 木造の適正評価定着から

・小鹿紀英氏 サーツ寺子屋オンライン講座第8回「関東地震から100年の文明の進化は、次の大地震を乗り越えられるか」開催報告

□ 余滴：銀座にも人影戻り山笑ふ

捷三郎